

令和元年6月26日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2018

課題番号：25370372

研究課題名(和文) グローバル文化史から見たドイツ文学・ドイツ思想 現代ドイツの文化学を応用しつつ

研究課題名(英文) German Literature and Thought from a Global Cultural History Perspective: By Means of Modern German Cultural Science

研究代表者

縄田 雄二 (Nawata, Yuji)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：20251382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：自然史に世界史を組み込んだBig Historyと、現代ドイツの文化学(Kulturwissenschaft)とを融合させることにより、個々の地域の文化をたばねたものと全く異なる、統一的な世界文化史が書けることを示し得た。自然環境の地球規模での変化や、紙や写真といったメディアの広範な伝播など、共通する外的条件が、地球諸地域の文化をばやくからシンクロナイズさせた、という考えに基づく「自然史・メディア史としての世界文化史」である。ドイツ文学・ドイツ思想を論じつつ、本研究はあたらしい研究領域をさえ拓いたと信ずる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界のさまざまな地域の文化の歴史を、ばらばらな地域史の寄せ集めではなく、統一された歴史として書くことができれば、地球諸地域の友好を深めるのに寄与しうるのである。そうした統一史に基づく世界文学の教科書、世界文化の傑作集などを学校のために、社会のためにつくることを目指してもよいであろう。こうしたことを夢みられるだけの展望を、本研究はひらいた。

研究成果の概要(英文)：Through the fusion of Big History, which integrates human history with natural history, and modern German cultural science (Kulturwissenschaft), this research has shown how an integrated global cultural history is possible. Global conditions such as climate change or media (paper, photography, etc.) have always synchronised the cultures of different regions of the world. Beyond Germanistic research, this project has been able to open a new field of research: 'Global history of culture as a history of nature and media'.

研究分野：German Literature

キーワード：Big History Global History natural history cultural history media history Kulturwissenschaft German literature German thought

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ドイツ語圏においては1980年代以来、文化学(Kulturwissenschaft)の諸理論が、旧来の人文学を刷新した。哲学研究、文学研究、美術史学などの伝統的諸学が縦系とすれば、メディア論、学問史学、記憶論、図像論、パフォーマンス論などの諸理論が横系となり、縦系の諸学問をつないだのである。文化学はしかし、分析対象をヨーロッパ文化に限る傾向があり、そのことにより行き詰まっているように見える。

歴史学においては、各国史の組み合わせとしての世界史から、世界各地の歴史を統一的連関のもとに記述するグローバル史(Global History)への脱皮が起きた。グローバル史の手法はしかし、文化史においては経済史におけるような大きな成果を挙げていない。

文化学とグローバル史の結合による文化比較や文化史分析は、文化学に対してもグローバル史に対しても大きな成果をもたらすであろうが、ほとんどなされていない。

2. 研究の目的

文化学とグローバル史を結びつけ、人文学に新たな領域を拓くこと。ケーススタディをドイツ文学・ドイツ思想などを対象として行うこと。

3. 研究の方法

文化学(Kulturwissenschaft)とグローバル史(Global History)の結合による文化比較や文化史分析。

4. 研究成果

1) 地球規模の気象変動や、広義のメディア(例えば紙という筆記面)の地球規模の伝播などにより、地球の異なる地域同士の文化の共通性が古くから生み出されてきた、という概観を得た。これにより「自然史・メディア史としての世界文化史」という研究領域を拓き得た。

2) 視覚にかかわるゲーテの詩句や、聴覚にかかわるヘルダーリンの詩句を、同時代の東アジアの視覚や聴覚に関わる詩句と比較することにより、地球規模の視覚文化史や聴覚文化史を垣間見得た。文字文化のなかに、視覚文化や聴覚文化の反映・記録を読みとり、その反映・記録を、文化学的手法で分析したのである。

3) Marcel Beyer, Durs Grünbein, Christian Kracht ら、ドイツ語で書く現代作家の一部は、文化学に類した視点から異文化や文化史を描くことがある。その例をいくつか示し得た。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

1. NAWATA Yūji, "Europe in the Global History of Culture, or: Journeying to a Japanese Cape with Friedrich Kittler," in *Jahrbuch für Internationale Germanistik*, in press.
2. NAWATA Yūji, "Towards a Global History of Culture," in *Jahrbuch für Internationale Germanistik*, in press.
3. 縄田雄二「一八二七年の幻燈文学 申緯、ゲーテ、馬琴」『三田文学』第97巻第134号(2018年夏季号)189-196ページ

[学会発表](計9件)

1. NAWATA Yūji, "Mediengeschichte als Methode der Komparatistik vorgeführt am Beispiel einiger dadaistischer Texte" 日本独文学会春季研究発表会(早稲田大学戸山キャンパス、2018年5月26・27日)の2日目に開かれたシンポジウム"Literaturtheorien in der Anwendung"にて
2. NAWATA Yūji, "Schrift und Buch in deutschen Zukunftsromanen: Reinhard Jirgl's "Nichts von euch auf Erden" (2012) und Georg Kleins "Die Zukunft des Mars" (2013)" German Studies Association Annual Conference(会議は2017年10月5-8日AtlantaのSheraton Atlanta Hotelにて、発表は"Altering Reality: Challenging Realism in Postwar Literature"と題した6日のsessionにて)
3. NAWATA Yūji, "Vergleich alter Schriftkulturen für eine Geschichte der Weltliteratur: Am Beispiel Europa-Ostasien" 日本独文学会・ドイツ学術交流会共催第59回文化ゼミナール(2017年3月12-17日長野県のResort Hotel Tateshinaにて開催、口頭発表は13日)
4. NAWATA Yūji, "Reconsidering the Relationship between Phantasmagoria and Goethe's Faust" The Sixth International Symposium on Comparative Culture of the Institute for Humanities Research, Kanagawa University, Yokohama, Japan: "From Entertainment to Art: The Evolution of Cultural Practices"(2016年6月18日神奈川大学)にて
5. 縄田雄二:「音響学史から見たヘルダーリンのピンダロス断篇 "Vom Delphin"」日本独文学会春季研究発表会(2016年5月28日・29日獨協大学にて、発表は28日)
6. 縄田雄二:「幻燈劇としてのゲーテ『ファウスト』再考」第6回日本独文学会関東支部研

- 究発表会（2015年11月28日日本大学理工学部駿河台キャンパスにて）
7. 縄田雄二：「世界文化史から見た『世界文学』概念」世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会（2015年3月19日・20日東京外国語大学、発表は20日）
 8. NAWATA Yūji, “Film und Buch in Christian Krachts Roman “Imperium”” 日本独文学会春季研究発表会（2014年5月24日・25日麗澤大学）におけるシンポジウム「バロックから今日までのドイツ文化における図像性と書記性 現代の文化学・文学を参照しつつ」（24日）にて
 9. NAWATA Yūji, “Bildlichkeit unverstandener und angefeindeter Schriften: Beispiele aus der deutschsprachigen Gegenwartsliteratur” 2013年5月24-26日に Warburg-Haus Hamburg で行われた学会“Heterogene Bild- und Schriftverhältnisse”にて26日に発表

〔図書〕(計6件)

1. NAWATA Yūji, “Mediengeschichte als Methode der Komparatistik vorgeführt am Beispiel einiger dadaistischer Texte,” in *Literaturtheorien in der Anwendung*, ed. Arne Klawitter, 34-49. Tokyo: Japanische Gesellschaft für Germanistik, 2019, 66p., SrJGG 134. <http://www.jgg.jp/pdf/updata/SrJGG-134.pdf>.
2. 縄田雄二編『マルセル・バイアー詩集『黒鉛』 抜粋訳と解釈 JSPS 科研費 JP25370372 「グローバル文化史から見たドイツ文学・ドイツ思想 現代ドイツの文化学を応用しつつ」成果報告書』（2019年2月発行、中央大学生協同組合（東京都八王子市）印刷）(総ページ数137)
3. NAWATA Yūji, “Anmerkungen zu “ERDBEBEN. TRÄUME,” in *Toshio Hosokawa “ERDBEBEN. TRÄUME,”* ed. Oper Stuttgart, 22-33. Stuttgart: Oper Stuttgart, 2018. 72p.
4. NAWATA Yūji, *Kulturwissenschaftliche Komparatistik: Fallstudien*. Berlin: Kadmos, 2016, 251p.
5. 縄田雄二編、磯崎康太郎・安川晴基・縄田雄二訳『詩と記憶 ドウルス・グリューンバイン詩文集』（2016年思潮社）(総ページ数145)
6. *Bildlichkeit und Schriftlichkeit in der deutschen Kultur zwischen Barock und Gegenwart: Mit aktuellen Ansätzen aus der Kulturwissenschaft und der Literatur*, ed. NAWATA Yūji. Tokyo: Japanische Gesellschaft für Germanistik, 2015, 68p., SrJGG 108. / 縄田雄二編『バロックから今日までのドイツ文化における図像性と書記性 - 現代の文化学・文学を参照しつつ』（= 日本独文学会研究叢書 108、2015年日本独文学会）(日独二言語論集)(総ページ数68)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。